



1月23日は川越市長選挙です 皆様からのご質問をそのまま立候補者にぶつけました

皆様からの質問も候補者からの回答も出来る限り本文のままを掲載するように努めました。下の回答からもわかるように三者三様で、誰が市長になっても同じ・変わらない、といったことはありません。今回の企画によって、候補者の政策を、またそれ以上に市長選挙そのものを、少しでも身近に感じていただけたら、と思います。

皆様からのからの質問 回答を頂いた順に (加) 加藤候補 (い) いわさき候補 (ふ) ふなばし候補

Q 行政改革は必要と思いますが、具体的にどの部分の改革が必要とお考えですか。

- A (加) 停滞、遅滞している計画業務の見直し。人事。
(い) 改善すべき点は多々あるが、まずは徹底した情報公開の推進
(ふ) 定員管理・給与の適正化。PFI手法や指定管理者制度導入により民間の経営手法を効果的に活用。

Q 市の組織を経営組織体にするためには、どのような機構図が必要とお考えですか。

- A (加) 行政経営部の設置を検討。市長部から「市民大学～」を廃止。市民シンクタンクを条例設置。
(い) 最小のコストで最大の効果を出せるよう職員の意識改革に努めたい。
(ふ) グループ制や担当制の導入。プロジェクト型の課題解決型組織の活用。庁内分権の推進が必要。

Q 会計予算書を市民に分かりやすくするための案は何か持っていますか？

- A (加) 計画事業毎の予算書を作成。計画・予算・実行予算・決算と流れを持って示す。
(い) 回答なし
(ふ) 更に分かりやすくするために、皆さんの意見を聞く会も設定する必要があると考えている。

Q 業務改革について、民間企業の良いところを取り入れ、改革すべきだと考えるがどうか。

- A (加) 無駄をなくしたスピード感が必要と考えている。会議・執行機関・行政評価・組織も変える。
(い) 私は民間企業の経営者でもあり、その成果を市政運営にも取り入れたい。
(ふ) 計画・予算・評価の連携を図る事により、成果を重視したマネジメントサイクルの確立に努める。

Q 現在の川越市の予算に占める公債費の割合を減らすための案は持っていますか。

- A (加) ある。市債の発行をしない。箱物行政を止める。
(い) 市長給与、市議会議員定数(定年制を利用)、市職員定数の1割削減を提案。市債の増加を止める。
(ふ) 他市と比べても高くないが、案としては既に借り入れた市債の任意の繰上げ償還が考えられる。

Q 市からの補助金が、円滑な組織運営と称した会員の「飲み食い」等に使われている状況を見聞します。見直しや対策が必要だと思うのですが、具体的な案をお持ちであればお聞かせ下さい。

- A (加) 組織の自律を促しNPO化させる。運営に対しては必要とあらば助成するが、助成金申告制とする。
(い) あってはならないことです。事実であれば対策を講じなければならないと思います。
(ふ) 漫然と補助を続ける事は財政の硬直化に繋がる。団体と十分な協議を重ね常に見直しを行う。

Q 開かれた議会にするために議会のテレビ放映や市議会だよりの充実が必要と考えるがどうか。

- A (加) 当たり前前に必要と考える。すべての情報公開は民主主義の第一歩である。密室主義は大反対。
(い) 市の意向だけではできないが、インターネットを利用したビデオシステムなどと併せて議会と協議したい。
(ふ) いくつかの課題がありますが、議会の意向を尊重しつつ、前向きに対応したい。